

## 6年間を通じたことばの学習計画

		主な活動内容	ねらい
低学年	言語観を広げる活動	<p>○ことばあそび「ことばっておもしろいね」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもしろことばなし（ことば遊びうたなどの音読）</li> </ul> <p>○身体を開く活動「からだをつかってみよう」※次項参照</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・握手大作戦（相手の手を感じる）</li> <li>・なりきり表現</li> <li>・イメージキャッチボール</li> <li>・ミラー</li> <li>・オノマトペと擬態語の身体表現</li> </ul>	<p>○ことばに親しむ。</p> <p>○身体表現活動を通じて、五感を開く。</p>
	活動 多言語	<p>○「いろいろなことばで遊ぼう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界のあいさつ・多言語での歌※教材 1</li> <li>・民話のよみきかせ</li> <li>・多言語で動物の鳴き声クイズ</li> <li>・楽器の音クイズ</li> </ul>	<p>○歌などを通じて多言語に関心をもつ。</p>
	言語観を広げる活動	<p>○多様な伝え方について体験してみよう※次項参照</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非言語を含むコミュニケーションの方法いろいろ</li> <li>・色のメッセージ</li> </ul> <p>○日本語はおもしろい！※日本語教材担当参照</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・語用論的なもの</li> <li>・人称の使い方</li> <li>・男言葉、女言葉</li> </ul>	<p>○多様なコミュニケーションの方法を知り、それを活用できるようにする。</p> <p>○日本語のおもしろさを知り、関心を深める。</p>
中学年	多言語活動	<p>「いろいろなことばに触れよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ありがとう」カルタ（多言語での文字と言語名を組み合わせるカルタ）※教材 3 も参考に</li> <li>・伝言ゲーム</li> <li>・世界の挨拶※教材 1</li> <li>・外来語と日本語の関係（クイズ形式）※次項参照</li> <li>・手話・点字体験</li> </ul>	<p>○多言語に触れる活動や調べ学習を通し、手話や点字なども言語の一つであることを知る。ことばは互いに影響しあうものであることを実感する。</p>
	調べ活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知っている言語や、その特徴などについて調べる</li> <li>・身近な外来語を探せ！</li> </ul>	
高学年	言語観を広げる活動	<p>「ことばとは何か？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ことばイメージマップづくり※教材 6</li> <li>・言語クイズ（言語の数、言語の分け方、危機言語）※教材 4</li> <li>・方言について（EX 津軽弁のジャズを聴く・琉球語のラジオ体操・方言話者のゲスト・方言カルタ）</li> <li>・英語について（もし世界が英語だけだったら？）</li> <li>・大切なことばのランキング（地域で聞き取りをする）</li> </ul>	<p>○ことばそのものに焦点を当て、言語観を広げる。</p> <p>※英語担当者教材参照</p>
	調べ学習	<p>① 危機言語プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイヌ語・琉球語など危機言語の歴史と自分の関連を考える。</li> <li>・危機言語に対してどう行動すればよいか考える</li> </ul>	<p>○危機言語について知り、ことばの問題の解決の道をさぐる。</p>
	活動 多言語	<p>「ことば探偵団」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の言語を比較して決まりを見つけ出す。※教材 2</li> <li>・文字の解説、自分の名前を多様な文字で書く。※教材 5</li> </ul>	<p>○多様な言語に触れ、母語と異なる言語に対する先入観や恐怖観をなくす。</p>
	調べ学習	<p>② 自分たちの言語観を発信しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学びのまとめ、今後ことばをどう学ぶか、などについて話し合い、模造紙にまとめて発表する。※教材 7</li> </ul>	<p>○ことばについての学びをまとめ、言語観や問題意識を発信する。</p>

## 前項の表にある活動のいくつかについて説明

### 低学年 ○身体を開く活動「からだをつかってみよう」

#### 握手大作戦（相手の手を感じる）

5人組になる。当てる人Aさんと当てられる人Bさんを決める。Aさんは目を閉じてBさんと握手し、Bさんの手の感覚を覚える。次に、Bさんを含むグループ全員と握手をしていき、何番目に握手したのがBさんの手かを当てる。

#### なりきり

ペアになる。一人が出したお題の通りに、もう一人は身体表現を使ってなりきる。（例えば、動物や文房具など、なんでもよい）

#### イメージキャッチボール

ペアになる。空想のボールがあると想定して、ジェスチャーだけでキャッチボールをする。できたら、ボールの代わりに色々なものを想定してキャッチボールする。（例えば、ボーリングの玉、水風船、サボテンなど）

#### ミラー

二人組になる。人間役と鏡役を決める。鏡役は、人間役の動きを鏡写しで真似する。人間役は、自由に色々なポーズをとってよい。

#### オノマトペと擬態語の身体表現 一いくつか紹介する。

- ・擬態語や擬音語を聞いて、それを体で自由に表現する。
- ・多様な言語のオノマトペを聞いて、何を表すのか考える。
- ・動物の鳴き声を聞いて、聞こえたとおりにオノマトペを作ってみる。
- ・自分の今の気持ちをオノマトペにして、カードに書き、首から下げる。自由に友達と交流する。（中学年や高学年でも可）

### 【参考文献】

以下のようなものを参考にしてはどうでしょう、という提案として私が興味をもった文献を紹介しておきます。

- ◆文科省村山哲哉『ことばのふしぎ なぜ？どうして？』高橋書店、2013
- ◆宇都宮裕章『対話でみがくことばの力』ナカニシヤ出版、2010
- ◆田中博之『ワークショップ』、2012
- ◆大津由紀雄『ことばの力を育む』慶應義塾大学出版、2008

## 中学年 ○多様な伝え方について体験してみよう

### 非言語を含むコミュニケーションの方法いろいろ

・二人組になる。お題を決め、そのお題を次の4つの方法で相手に伝える。

- ① アイコンタクトだけを使って
- ② 表情だけを使って
- ③ ジェスチャーだけを使って
- ④ 上の全てを使って

(お題は、例えば、のどが渴いているので水を飲ませてください、など何でもよい)

・どの方法がメッセージを伝えやすかったのか、振り返りをする

### 色のメッセージ 2つ活動を紹介する

- ① ブーバとキキ (下の絵の、どちらがブーバで、どちらがキキだと思いますか?という質問をする。するとほとんどの場合、黄色をキキ・紫をブーバと答える。これは他言語話者でも結果が同じになるという。そのことから、色(形も)と音のイメージにはつながりがあることに気づかせる)



- ② ハンバーグの写真の下に、色々な色の文字で「ハンバーグ」と書いたカードを用意する。どの色で書かれたハンバーグが一番おいしそうか、またおいしくなさそうかを考える。  
(赤や黒の文字では、おいしそう、青い文字ではおいしくなさそうと答える人が多かった)

**ハンバーグ** **ハンバーグ** **ハンバーグ** **ハンバーグ** **ハンバーグ**

### 外来語と日本語の関係(クイズ形式)

ある外来語の元になった言語で音声を聞かせ、それが日本語では何を表すのか考える。また、何語かを考える。

例

(音声) ピモン →日本語では ピーマン →元言語は フランス語

(音声) ラーミエン →日本語では ラーメン →元言語は 中国語

(音声) ジュボン →日本語では ズボン →元言語は ポルトガル語

(音声) ラッコ →日本語では ラッコ →元言語は アイヌ語

次に、日本語が他言語の外来語になった例を知る。音声を聞かせる。

(音声) スーシー →寿司の中国語版

(音声) スモ →相撲のフランス語版

(音声) アントゥキ →小豆のアイヌ語版

※この教材は、音声が必要となる。保護者や地域の外国人、留学生などの協力を得るとよい。  
このHPにも今後掲載できるかもしれない。